

平成24年度事業

# 公共情報交換標準スキームの整備 に関する調査研究（概要）

平本 健二

経済産業省CIO補佐官

# 平成24年度調査の全体像

- 海外や国内の既存の取り組みを参照しながら、日本の現状を踏まえたボキャブラリ（語彙）群と関連フレームワークを整備し、その検証を行った。

## 1. 動向調査

- ・国内外の動向の整理
- ・国内外の技術調査
- ・国内外の既存語彙調査

## 2. 共通語彙基盤（IMI）の整備

- ・基盤全体像の整理
- ・コアボキャブラリの整理
- ・試行ドメイン作成
- ・命名規則案の整備
- ・メッセージセット構築ツールの検証
- ・運用規則案の整備

## 3. ユースケースの検証

- ・試行ドメイン（防災（物資））の検証
- ・総務省実証結果とのマッピング検証
- ・住民基本台帳関連情報とのマッピング検証
- ・DataMETIデータ項目での検証
- ・復旧・復興支援制度DBでの検証

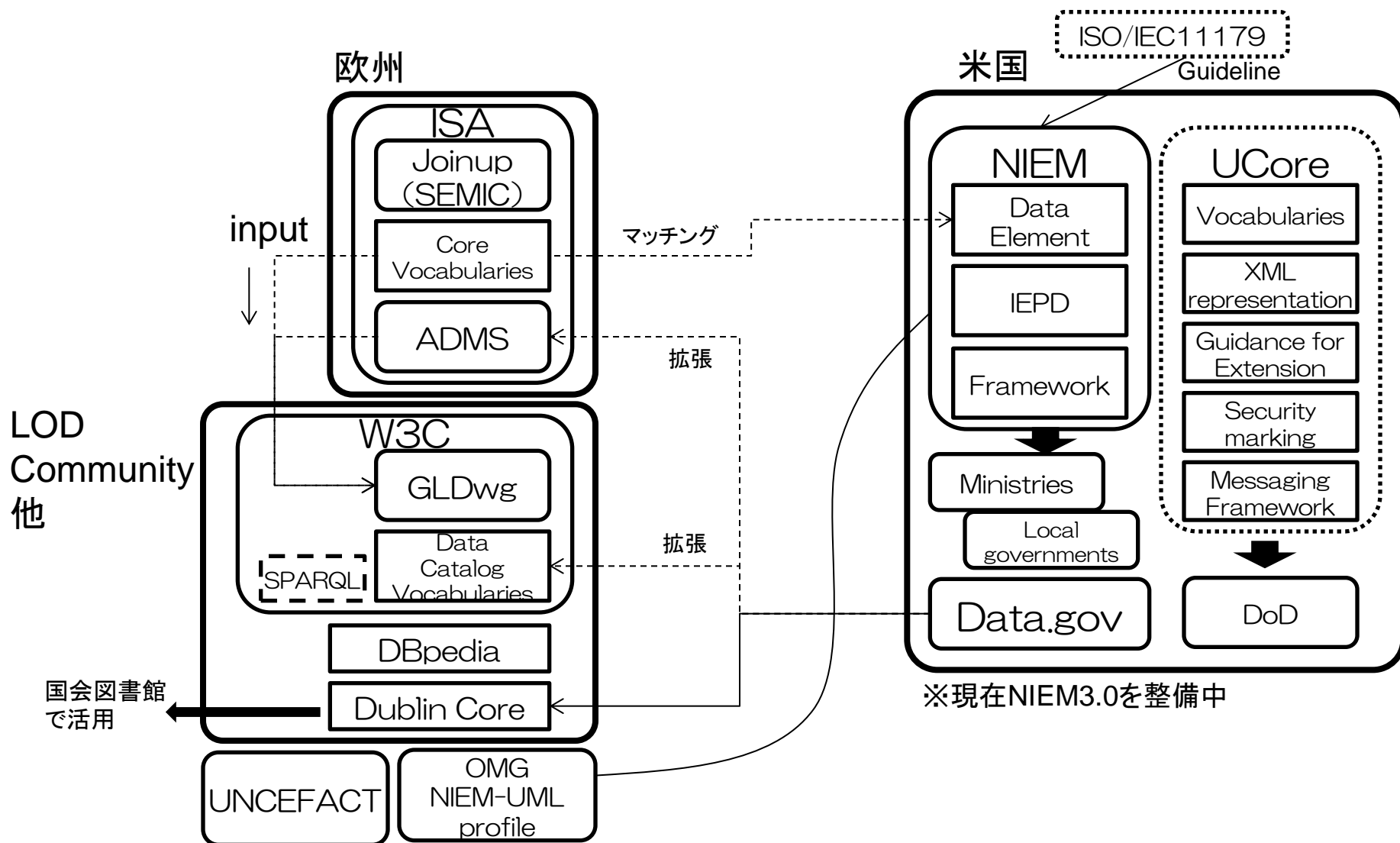
国内の基本となる体系化された基盤案が完成

---

## 1. 動向調査

# ボキャブラリを巡る世界の取り組みが進展中

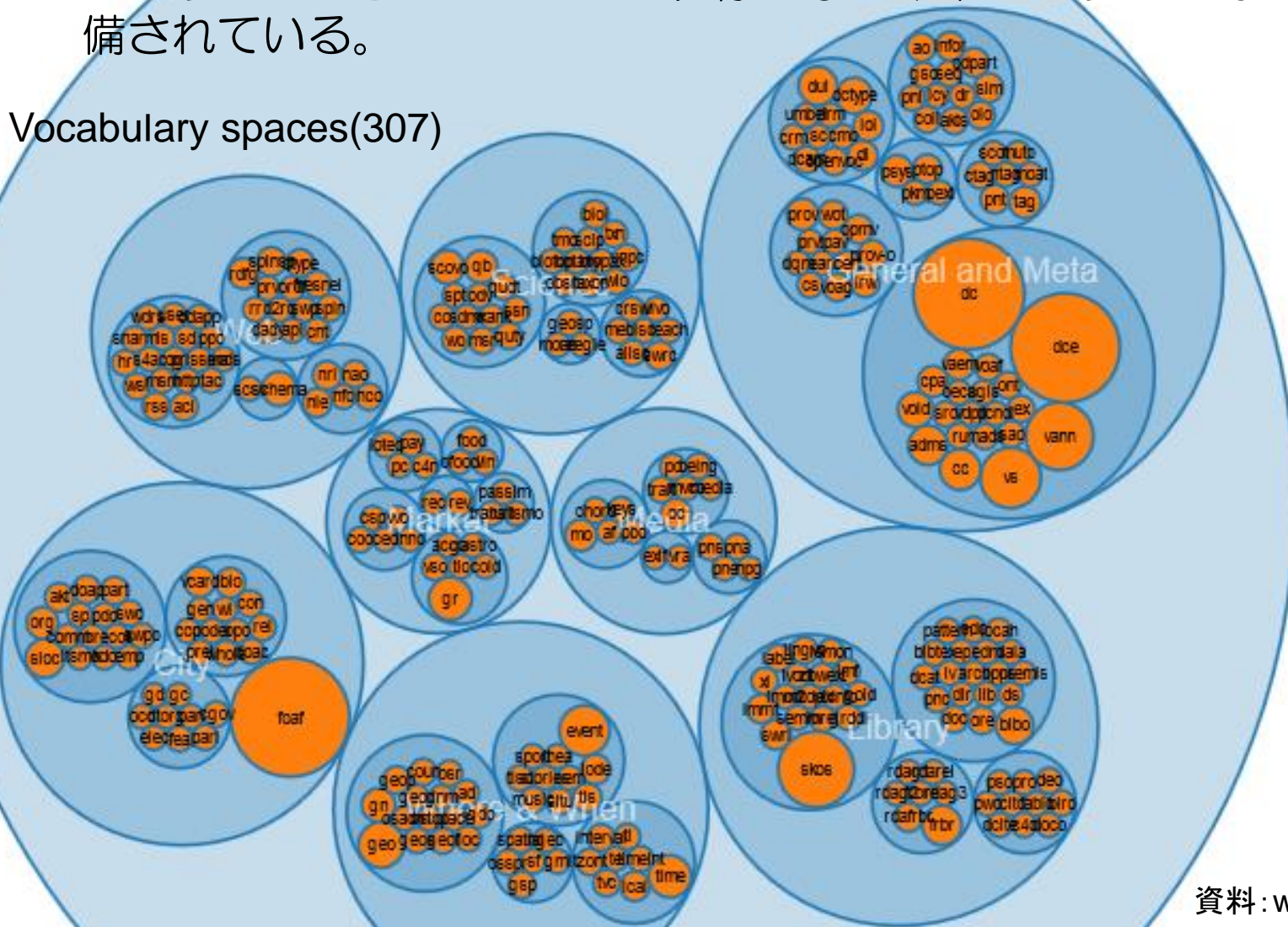
- 政府機関や標準化団体がボキャブラリの標準化に積極的に取り組みをおこなっており、各ボキャブラリの連携も始まっている。



## 世界の主要ボキャブラリセット

- ダブリンコアをはじめとして、様々なボキャブラリが目的に応じて整備されている。

## Vocabulary spaces(307)



資料: [www.okfn.org](http://www.okfn.org)

# 国内の既存ポキャブラリ：地域情報プラットフォーム標準仕様

## APPLIC（（財）全国地域情報化推進協会）が地域情報プラットフォーム標準仕様を整備

項目セット辞書 ※複数の項目を組合せた項目セット辞書							版 標準仕様V2.2	作成日
項目番号	項目セット名	項目名	CD	データ型	桁数	出現回数 最小 最大	外字 使用	項目の説明
1	日付情報	年		X	4	1 1		西暦年
		月		X	2	1 1		右詰め残り前「0」
		日		X	2	1 1		右詰め残り前「0」
2	氏名情報	氏名		N	100	1 1	○	姓と名の間に全角の空白を一文 字入れる。
		フリガナ		N	100	1 1		姓と名の間に全角の空白を一文 字入れる。
3	住所情報	住所コード	○	X	30	1 1		〒の付く全国共通コード等の利用を 想定。住所のコード化が必要な範 囲に応じて自治体で個別に設定す る。
		住所		N	100	1 1	○	
		方書		N	150	1 1	○	
		郵便番号		X	10	1 1		
4	続柄情報	続柄1	○	X	2	1 1		※続柄
		続柄2	○	X	2	1 1		※続柄
		続柄3	○	X	2	1 1		※続柄
		続柄4	○	X	2	1 1		※続柄
5	法人名情報	法人名称		N	100	1 1	○	法人名称を表す。(「株式会社」等の 法人区分は含まない)
		法人名称カナ		N	100	1 1		法人名称のフリガナを表す。(「カ ブシキカイシャ」等の法人区分は含 ま
		法人区分	○	X	2	1 1		「株式会社」等の法人区分を表す
		法人名編集区分	○	X	1	1 1		法人名を編集する際、「株式会社」 等の法人区分が、法人名称の前 後どちらにつくかを表すコード。
融機関情報	金融機関コード	金融機関コード	○	X	4	1 1		(全銀協)統一金融機関コード
		支店コード	○	X	3	1 1		(全銀協)統一店番号
		口座種別	○	X	1	1 1		(全銀協)預金種目
		口座番号		X	8	1 1		右詰め残り前「0」
月情報	口座名義人名	口座名義人名		N	40	1 1		左詰め残りスペース
		口座名義人名カナ		N	40	1 1		左詰め残りスペース
		年		X	4	1 1		西暦年
		月		X	2	1 1		右詰め残り前「0」
入科目情報	会計	会計		X	2	1 1		※科目情報の項目は導入団体に合 わせ調整
		予算区分	○	X	1	1 1		
		款		X	2	1 1		
		項		X	2	1 1		
出科目情報	目	目		X	2	1 1		
		節		X	2	1 1		
		細節		X	2	1 1		
		細々節		X	3	1 1		
間情報	空白	空白		X	14	1 1		
		会計		X	2	1 1		※科目情報の項目は導入団体に合 わせ調整
		予算区分	○	X	1	1 1		
		款		X	2	1 1		
属情報	項	項		X	2	1 1		
		目		X	2	1 1		
		大事業		X	3	1 1		
		中事業		X	3	1 1		
時刻情報	小事業	小事業		X	3	1 1		
		節		X	2	1 1		
		細節		X	2	1 1		
		細々節		X	3	1 1		
属情報	空白	空白		X	5	1 1		
		時間		S9	2	1 1		24時間
		分		S9	2	1 1		
		所属コード		X	12	1 1		
時刻情報	所属名	所属名		N	30	1 1		
		部名称		N	30	1 1		
		室名称		N	30	1 1		
		課名称		N	30	1 1		
時刻情報	係名称	係名称		N	30	1 1		
		特命区分		N	30	1 1		
		出先区分		N	30	1 1		
		任命権者区分		N	30	1 1		
時刻情報	時	時		X	2	1 1		右詰め残り前「0」
		分		X	2	1 1		右詰め残り前「0」

地域情報プラットフォーム標準仕様書	業務モデル標準	サービス協調技術標準
	自治体及び民間が提供する地域情報サービスの連携に必要な業務アプリケーションユニットのインタフェース仕様	サービス連携を支える基盤アプリの諸要件・プロトコル等を取り決めた仕様
	◆自治体業務アプリケーションユニット標準仕様	◆アーキテクチャ標準仕様
	◆防災業務アプリケーションユニット標準仕様	◆プラットフォーム通信標準仕様
	GISを活用した業務ユニット、アプリケーションを構築するための共通仕様	
その他	◆GIS共通サービス標準仕様	
	各種システム製品等の地域情報PF準拠及び相互接続を確認する仕様	
	◆地域情報プラットフォーム準拠確認及び相互接続確認仕様	
	仕様に準拠したサービス基盤、および業務アプリケーションを導入する調達者向けに必要な事項を、とりまとめたもの(指針)	
	◆地域情報プラットフォームガイドライン	
資料 参考	◆地域情報プラットフォーム基本説明書	
	◆地域情報プラットフォーム標準仕様運用規則	
資料 参考	◆地域情報プラットフォームガイドライン 技術解説 要約	
	◆地域情報プラットフォームにおけるGIS共通サービス基本提案書	



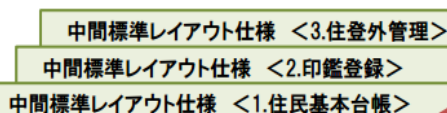
## 国内の既存ボキャブラリ：中間標準レイアウト

総務省では、自治体業務システムの切り替えに伴うデータ移行時に、共通に利用できる中間標準レイアウト仕様を整備している。

データ項目一覧表		業務系						発行ファイル系		バージョン	
		住民基本台帳						住民ファイル		バージョン/ID	
No.	データ項目名称	データ型	桁数	外字 使用	コード	必須 (○) 任意 (△) 空白 ( )	繰り越し 可能 (○) 不可 (△)	項目説明	サンプル値	備考	
1	識別番号	X	15			○	○	人を統一して管理する番号	123456789012345	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
2	個人履歴番号		9	10		○	○	個人番号単位に、履歴の若い順カウンタアップ。	1		
3	消滅フラグ	X	1		消滅フラグ	○	○	消滅にコードからそれ以外かのフラグ。	0		
4	複製番号		9	5		○	○	住民履歴更新時に、古い順にカウンタアップ。			
5	登録番号	X	15			○	○	住民登録番号を管理する番号	234567890123456	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
6	住所種別	X	1		住所種別	○	○	人の住所(住民-外国人、住居外-法人)を区分	1	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
7	住所状態	X	1		住所状態	○	○	人の住所(住民-外国人、住居外-法人)を区分	1	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
8	住民コード	X	11			○	○	住民基本台帳ネットワークでの管理番号	34567890123	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
9	氏名区分	X	1		氏名区分	○	○	氏名が漢字か漢字かの区分。	1		
10	氏名					○	○	住民基本台帳の氏名			
11	氏名	N	200	○		○	○	姓と名の間に全角の空白をローマ字入れる。	姓 一 部		
12	フリガナ	N	200			○	○	姓と名の間に全角の空白をローマ字入れる。	サウ イチロウ		
13	住所住所名称有無フラグ	X	1		有無			記入の住所名情報があるか否かのフラグ。	0		
14	通称氏名							通称氏名			
15	氏名	N	200	○				外国人の場合のみ使用、通称氏名を設定。	姓 一 部	APPLC標準は住民V3項目セット番号 使用、利用	
16	フリガナ	N	200					外国人の場合のみ使用、通称氏名フリガナを設定。	サウ イチロウ	APPLC標準は住民V3項目セット番号 フリガナ、利用	
17	姓記氏名							姓記氏名			
18	氏名	N	200	○				外国人の場合のみ使用、姓記氏漢字語の外国人の場合は、漢字氏名を設定。	姓 一 部		
19	フリガナ	N	200					外国人の場合のみ使用、姓記氏漢字語の外国人の場合は、姓記氏名のフリガナを設定。	サウ イチロウ		
20	姓記法律記氏名							姓記法律記氏名			
21	氏名	N	200	○				姓記法律記氏名氏名	姓 一 部		
22	フリガナ	N	200					姓記法律記氏名フリガナ	サウ イチロウ		
23	通称氏名							通称氏名、姓記氏名、姓記法律記氏名の中から、宛先として優先して使用する氏名を指定する。	姓 一 部		
24	氏名	N	200	○				通称氏名、姓記氏名、姓記法律記氏名の中から、宛先として優先して使用する氏名を指定する。	姓 一 部		
25	フリガナ	N	200					通称氏名、姓記氏名、姓記法律記氏名の中から、宛先として優先して使用する氏名を指定する。	サウ イチロウ		
26	性別	X	1		性別	○	○	住民基本台帳の性別	1		
27	生年月日							住民基本台帳の生年月日			
28	年号	X	2		年号	○	○	年号コード	03		
29	日付	X	8			○	○	年(西暦)＋月(右2桁の月)＋日(右2桁の日)	19760310	APPLC標準は住民V3データー一覧 住民基本台帳、住民基本台帳、住民	
								年号の中で記号でなく日付をセット、値が空白でない場合はスペース、年号1桁+月2桁+日2桁+日付。(住民ネットワークファイル登録の日付(生年月日)と同一形式)	21851225	APPLC標準は住民V3項目セット番号 使用、利用	
								生年月日が不明の場合、住民の生年月日に補完するものをセットする。			
								住民基本台帳の登録主との続柄			
								続柄	○	継続	
								続柄	○	継続	
								続柄	○	継続	
								続柄	○	継続	
								続柄	○	継続	

標準レイアウト仕様

構成表



＜表形式＞

- (1) 移行ファイル構成表
- (2) 移行ファイル関連図
- (3) データ項目一覧表
- (4) コード構成表
- (5) コード一覧表

### <XML形式>

- (Ⅱ)XML形式サンプル

### 【表形式の中間標準レイアウト仕様】

- (1)移行ファイル構成表  
...データ移行時に移行するファイル構成の一覧表
- (2)移行ファイル関連図  
...データ移行時に移行するファイル間の関連図
- (3)データ項目一覧表  
...移行ファイル内のデータ項目の一覧表
- (4)コード構成表  
...移行ファイル内で使用されるコード構成の一覧表
- (5)コード一覧表  
...移行ファイル内で使用されるコードのコード値とその内容の一覧表

## 【XML形式の中間標準レイアウト仕様】

- (Ⅰ)XML形式レイアウト仕様  
...表形式の「(3)データ項目一覧表」に対応したXML形式のレイアウト仕様
- (Ⅱ)XML形式サンプル  
...XML形式のレイアウト仕様に対応したXMLサンプル

## 1.(2)i) 行政情報の公開、提供と国民の政策決定への参加等の推進

【今後の取組】2012年度、2013年度

○我が国のオープンガバメントを確立するため、「電子行政オープンデータ戦略」を策定し、同戦略に基づき公共データ活用の推進と環境整備を実施。

- 内閣官房、総務省、経済産業省：公共データ活用ニーズ把握、データ提供方法等に係る課題の整理、検討及び民間サービスの開発に向けて、下記の実証事業等を実施する。総務省においては、オープンデータ流通環境の実現に向け、「オープンデータ流通推進コンソーシアム（仮称）」等と連携し、データ流通・連携のための共通APIの開発・国際標準化、データ活用ルールの検討等のための実証を行う。また、「クラウドテストベッドコンソーシアム」において、民間における統計情報の活用ニーズについて調査・分析するとともに、新たなクラウドサービスの開発を通じて統計情報の機械判読可能な提供方法等に関する検討を行う。経済産業省においては、「IT 融合フォーラム」等を通じて、融合新産業創出に向けた民間ニーズの調査等を行い、まずは、知的基盤データ等から提供方法改善、活用促進を図り、この結果も踏まえつつ公共データ提供の課題整理及び解決策の検討を行う。また、独立行政法人情報処理推進機構と連携し、データ活用を促進するためのフォーマット等の規範やマニュアルの整備、公共情報交換標準スキーム等の支援システム・ツールの実証を行う。内閣官房においては、総務省の協力を得て、各府省が提供している公共データについて、データベースを中心に現状の調査を行う。
- 内閣官房：2012年において、上記実証事業等の成果を踏まえつつ、官民による実務者会議において、総務省、経済産業省等関係府省の協力を得て、公共データ活用のために必要なルール等の整備、データカタログの整備、データ形式・構造等の標準化の推進等及びデータ提供機関の支援等について検討を実施する。また、今後実施すべき施策の検討及びロードマップの策定を行う。2013年において、関係府省の協力を得て、実務者会議において策定されるロードマップに基づき、施策の継続、展開を図るとともに、同会議において新たに検討される施策を実施する。



## 1. 災害関連行政情報の公開と２次利用

### (2) データのありかの明確化

#### ①災害関連行政情報の基盤整備

##### 【基本方針】

- 災害時に必要となる災害関連情報（避難勧告・避難所情報等）を地方公共団体において集約・管理・配信したり、情報を発信する者と伝達する者との間を結ぶ共通基盤を普及・拡充する。地方公共団体同士の災害援助協定に加え、民間も含めた災害援助協定を拡充する。また、政府と民間による災害協定の締結を推進する。災害発生時に草の根情報の収集や救助、支援のマッチングなどを適切に行うため、官が保有する情報を迅速に民間と共有できる仕組みづくりを推進する。避難指示情報、被害情報、交通機関情報、道路情報など震災時に必要な情報配信経路の一つとしてSNSの利用を推進する。都市空間における様々なデータを有機的に結合・活用できるデータベースを構築する。

##### 【アクションプラン】

- 総務省で進める情報流通連携基盤構築事業による共通APIの開発と、経済産業省で進める公共情報交換標準スキーム（XMLベースの標準データ項目群）の検討を国際標準や国内の既存フォーマットも考慮しつつ連携させ、災害時等において必要な行政情報を迅速に提供するための検討を進め、実施可能な取組から実行する。（内閣官房（ＩＴ室）、総務省、経済産業省、各府省庁）

### (3) 第3者への二次利用を可能にするAPIとデータフォーマットの公開・規格化

#### ①フォーマットの公開・規格化

##### 【基本方針】

- 行政機関における情報提供においては、二次利用を可能とする等の利用者の利便性を考慮する。加工が容易なフォーマットへの統一に加え、公開APIを使用するとともに、用途ごとに規格化されたAPIの整備を行い公開する。受け手による情報信頼度向上のための情報の定義とデータへの埋め込み（情報提供組織、提供日時など）を行う。

##### 【アクションプラン】

- 総務省で進める情報流通連携基盤構築事業による共通APIの開発と、経済産業省で進める公共情報交換標準スキーム（XMLベースの標準データ項目群）の検討を国際標準や国内の既存フォーマットも考慮しつつ連携させ、災害時等において必要な行政情報を迅速に提供するための検討を進め、実施可能な取組から実行する。（内閣官房（IT室）、総務省、経済産業省、各府省庁）〔再掲〕

## 動向調査まとめ

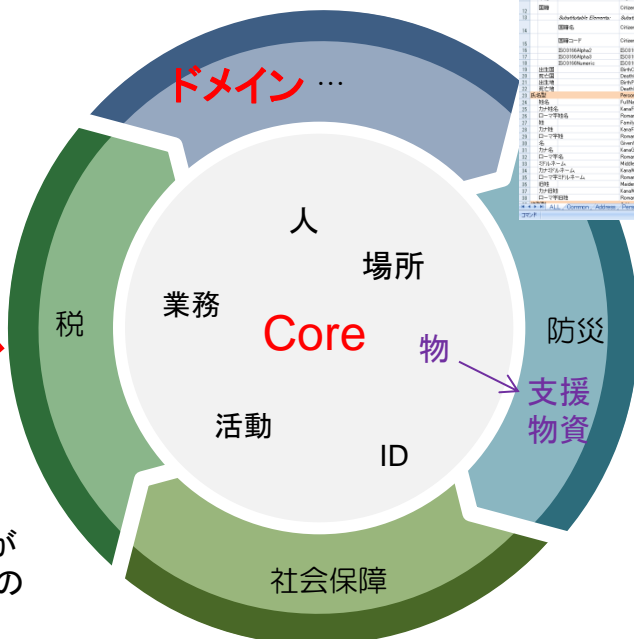
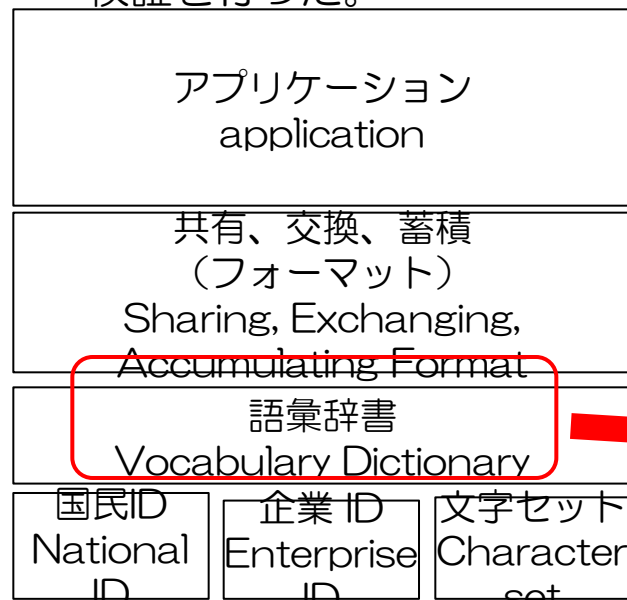
- 社会的に相互運用性を確保するため、語彙の整備を行うのは世界の流れである。
- 業界横断的に標準化された既存の語彙がある領域は、それらの活用するか、もしくは連携を図る必要がある。
- 業界独自で既存の語彙を持っている分野もある。その場合には、語彙のマッピングをする等、参入しやすい環境を整備する必要がある。
- 語彙は、維持、改善が必要であり、そのためには安定的な体制が必要である。
- 語彙を整備することにより、メッセージやAPIが構築しやすくなる。語彙、メッセージ、API等の、全体を俯瞰したフレームワークを考えながら推進していく必要がある。
- 米国は、語彙のメッセージセットへの展開を進めており、欧州は、語彙のメタデータへの展開を進めている。しかし、語彙からAPIへの展開は、ほとんど進められていない。APIは、利用技術の一つととらえられ、SPARQLが標準的に利用されている。

## 2. 共通語彙基盤の整備（コア、防災）

※「公共情報交換標準スキーム」は、「共通語彙基盤」に名称を変更

# IMI概要

- 行政機関のシステムや業務では、それぞれ独自に語彙を定義しており、相互運用性が確保されていない。このため、米国や欧州においては、行政機関の効率化のためにシステム等のための語彙整備が積極的に進められている。
- 国内の行政機関をはじめ公共分野で共通的に使える語彙案の整備を行った。「人」、「場所」、「物」といった、どのような業務でも使用する語彙（コア）案と、実際の業務エリア（ドメイン）として防災の「支援物資」に関する語彙案を整備し、その仕組みの検証を行った。



コア辞書案を整備  
Prepared a core dictionary plan  
防災(支援物資)辞書案を整備  
Prepared a disaster prevention

「避難者数」といっても定義や基準日が違う等の揺れがあり、情報交換やマッシュアップするためには「私はこのことを言っています」という意味付きの辞書が必要。

Even if you say "the number of evacuees", there are fluctuations such as different definitions and reference dates, and in order to exchange information and the meaning "I a

言葉があって初めて、データ間を正しく連携させることができる  
単なる辞書ではなく、活用方式やメッセージも含んだフレームワークとして考えていくことが重

Only with vocabulary can data be linked correctly. It is important to think of it as a framework that includes usage methods and messages, not just a dictionary.



## IMIの概念と他の語彙との関係

- IMIは他の語彙を置き換える物ではない。
  - 参照するのみなので、既存システムの語彙を変更する必要はない。
- 複数システムの相互運用性を確保するため、相互に参照するための基盤である。
  - そのため、主要なボキャブラリとのマッチングを行い、イメージを持ってもらうことが重要である。

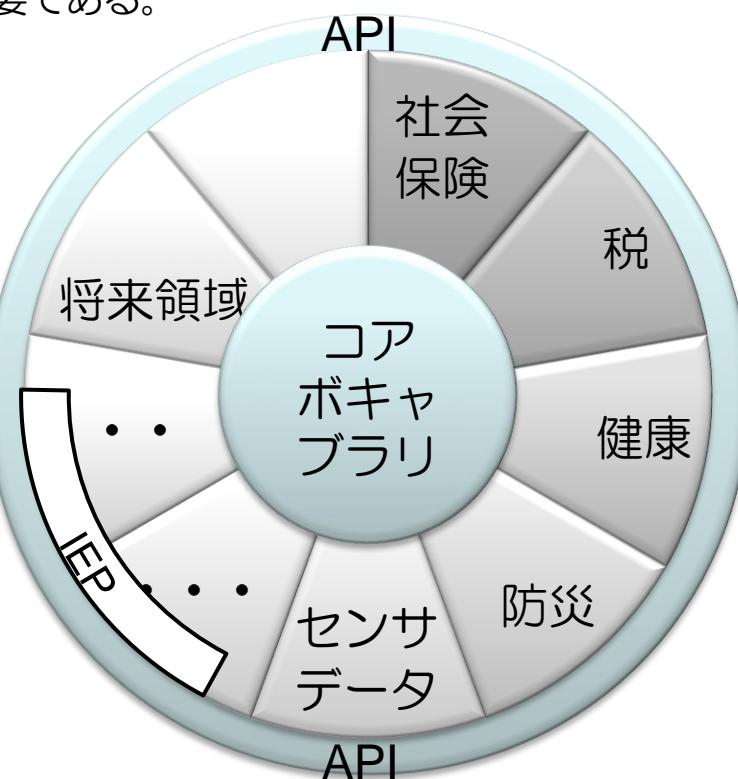
## 海外用語セット

[illegible]

## 民間用語

[illegible]

※IEPとは、情報交換パッケージ。データ形式やドキュメント等で構成される。  
 ※APIとは、アプリケーションデータのデータを交換するための、インタフェース。  
 共通データフォーマットや通信プロトコルで構成される。  
 ※IEPやAPIは、語彙を活用するための、有効なツール。

[illegible]

統計用語 自治体用語

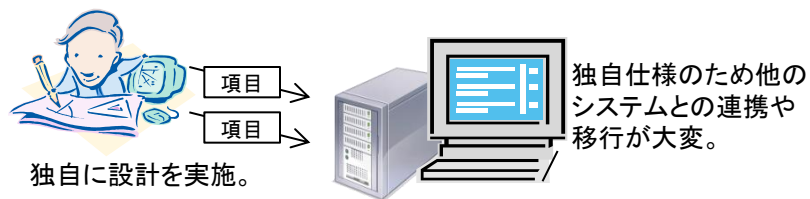
[illegible]

## 各種コード

# 具体的に何が変わるのか -What exactly will change?

## ボキャブラリ(辞書)のない世界(従来の世界)

### ①システム設計するときにデータ設計が必要

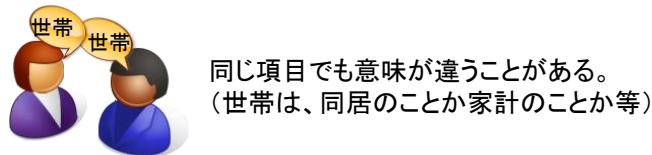


### ②データ交換をするときに形式の調整が必要



### ③データ交換をするとき意味の調整が必要

### ④意味のすれ違いから事故が発生

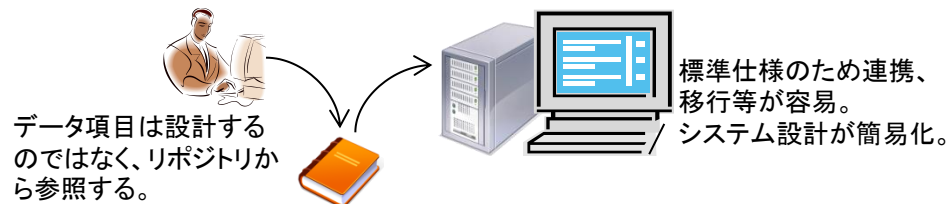


### ⑤データの交換は特定者間のクローズな領域



## ボキャブラリ(辞書)のある世界(これからの世界)

### ①システム設計するときに基本データはリポジトリから参照

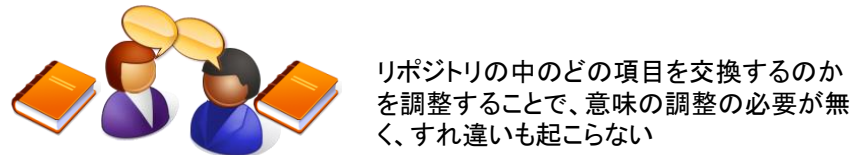


### ②データ交換をするときにリポジトリを使うため形式の調整が容易



### ③データ交換をするとき意味の調整が容易

### ④意味のすれ違いが起こらない



### ⑤個別調整ではなくデータがオープンに流通できる

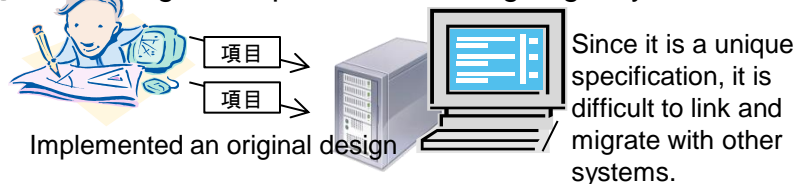


# 具体的に何が変わるのか -What exactly will change?

A world without vocabulary (dictionary) (conventional world)

A world with a vocabulary (dictionary) (the world of the future)

## ① Data design is required when designing a system

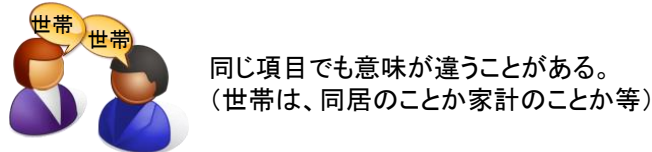


## ② Format adjustment is required when exchanging data



## ③ データ交換をするとき意味の調整が必要

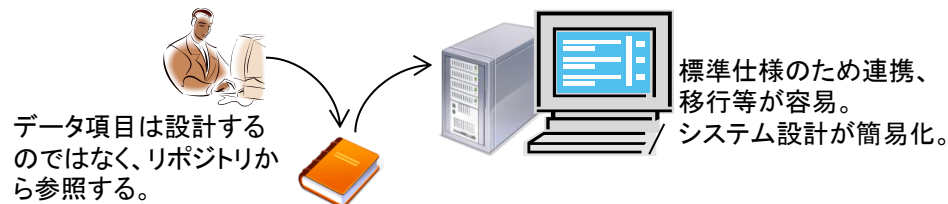
## ④ 意味のすれ違いから事故が発生



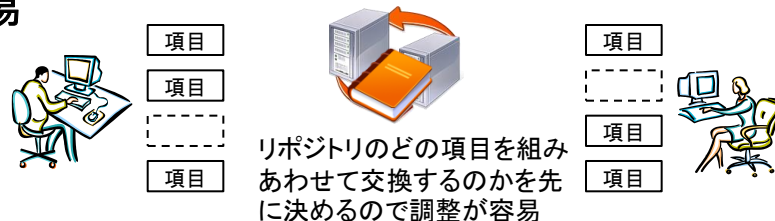
## ⑤ データの交換は特定者間のクローズな領域



## ① システム設計するときに基本データはリポジトリから参照

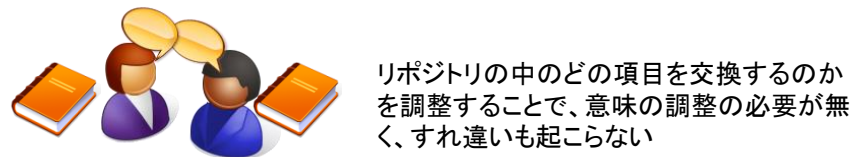


## ② データ交換をするときにリポジトリを使うため形式の調整が容易



## ③ データ交換をするとき意味の調整が容易

## ④ 意味のすれ違いが起こらない



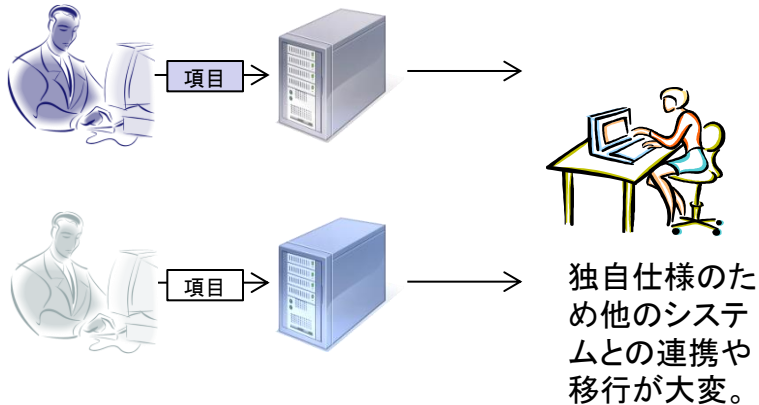
## ⑤ 個別調整ではなくデータがオープンに流通できる



# 具体的に何が変わるのか（オープンデータ）

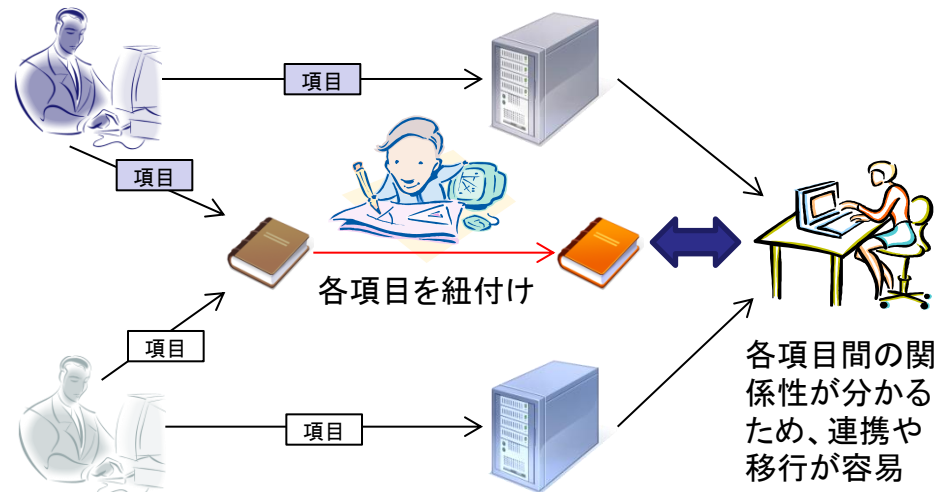
## 語彙基盤のない世界（従来の世界）

- ・システム設計するときにデータ設計が必要  
独自に設計したデータ項目を入力。

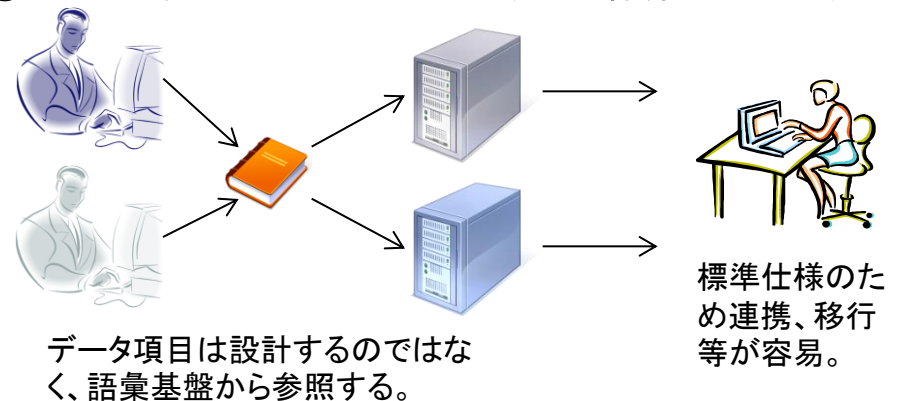


## 語彙基盤のある世界（これからの世界）

- ①システム設計するときに独自に設計したデータ項目を語彙基盤に登録し、各データ項目の関係性を紐付け

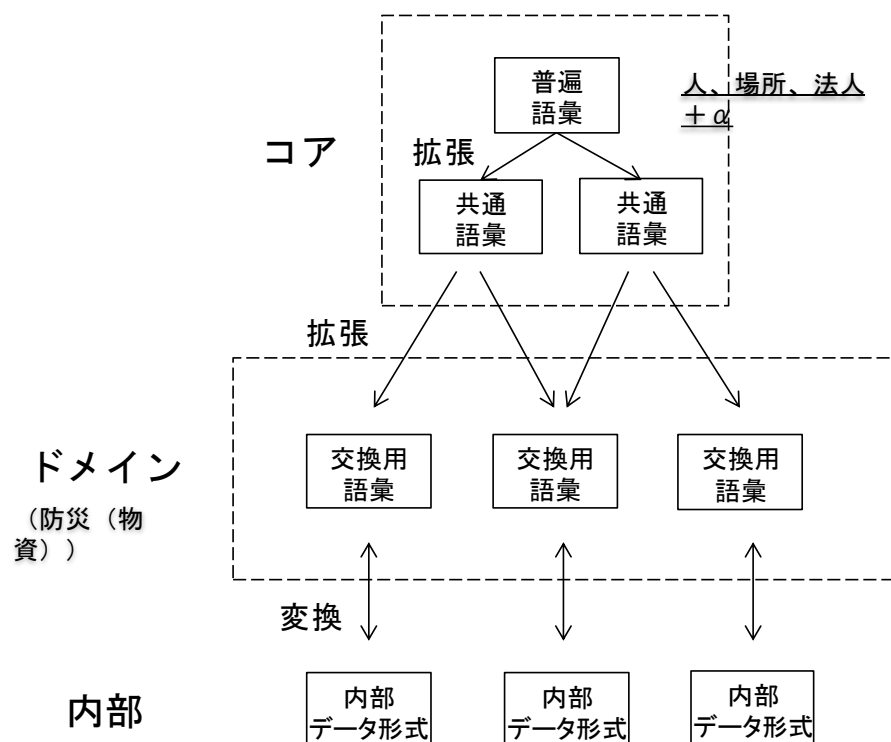


- ②システム設計するときにデータ項目を語彙基盤から参照



# 共通語彙基盤の整備方針

- 枠組み（命名規則、運用方法、データ型、交換方法）は文書が整備され、活用が進んでいるNIEMを踏襲する。
- コアでは複数のドメインにまたがって利用される共通の語彙を定義する。現状では、ISA joinup Core、NIEMを参考に、共通的に広く利用されると見込まれる語彙を定義する。
- 語彙はISA joinup Core、NIEMを参照し、双方に含まれている語彙を中心に整備する。欧米と日本では環境が異なるため、中間標準レイアウトや選定ドメインの語彙を参考に、日本で必要とされる語彙を追加する。





# IMIコアボキャブラリの整備方法

- IMIコアボキャブラリ整備における基本方針は、ISA joinup Core、NIEMを参照し、双方に含まれている語彙を中心に整備しつつ、日本特有の語彙を追加。

該当箇所	整備方法
全体	英語名については、基本的にはNIEMに使われている英語名称（アメリカ英語）を利用する。
全体	対象としたNIEM主要6タイプ、ISA joinupに加え、その中で参照されているデータタイプも定義する。
全体	日本語名称は、中間標準レイアウトやAPPLICによる標準仕様で対応するものがある語彙については利用する。
人型、組織型、場所型、住所型、証明型	NIEM、ISA joinup双方で定義されているデータタイプであり、語彙として基本的にはNIEM、ISA joinup双方で定義されているものを抽出する。また、構造はNIEMを踏襲する。
上記以外の型	NIEMのみに定義されているデータタイプであり、基本的にはNIEMを踏襲しつつ、日本では明らかに不要と考えられる語彙については追加しない。
イベント型	NIEM2.1では定義されていないものの、NIEM1.0では存在し、NIEM2.1に至る過程でActivityType(活動型)に統合され、消滅したデータタイプである。米国ではActivityと同様となっているが、日本では意味も異なり、イベント型としての語彙もユースケースが考えられるため、ActivityType(活動型)とは別に定義した。
物型、有体物型	物型については、今回整備する防災ドメインで利用される有体物型（TangibleItemType）まで定義した。語彙については、現状の防災のユースケースでは不要と考えられる項目は排除した。
日本独自項目	中間標準レイアウトやAPPLICによる標準仕様においても定義されている本籍を追加した。 また、日本ではカタカナやローマ字といった文字があるため、対応したカナ姓やローマ字姓などの項目を追加した。

# コア・ボキャブラリ

- 人、物、建物、組織、住所、位置情報等を中心に整備
- 既存ボキャブラリとのマッピングも実施

項目名 (Type/Sub-properties) 項目名 (エントリー名) 英語名			データタイプ	データタイプ (英語)	cardinality	項目説明	項目説明 (英語)	サンプル値	Mapping to NIEM	Mapping to ISA Joinup
人型	ic:人型	PersonType				人の情報を表現するためのデータ型。			nc:PersonType	Person
氏名	ic:人_氏名	PersonName	ic:氏名型	ic:PersonNameType	0..n	氏名	Name of a Person	-	nc:PersonName	
性別	ic:人_性別	PersonSex	<抽象要素>	<abstract element, no type>	0..n	性別	Gender of a Person	1	nc:PersonSex	gender
Substitutable Elements:			Substitutable Elements:							
性別コード	ic:人_性別コード	+ PersonSexCode	codes:性別コード型	codes:GenderCodeType		性別コード	Gender of a Person	1	nc:PersonSexCode	
性別名	ic:人_性別名	+ PersonSexText	ic:テキスト型	ic:TextType		性別の名称。	Gender of a Person	男	nc:PersonSexText	
生年月日	ic:人_生年月日	BirthDate	ic:日付型	ic:DateType	0..n	生年月日	Date of Birth of a Person	-	nc:PersonBirthDate	dateOfBirth
死亡年月日	ic:人_死亡年月日	DeathDate	ic:日付型	ic:DateType	0..n	死亡年月日	Date of Death of a Person	-	nc:PersonDeathDate	dateOfDeath
現住所	ic:人_現住所	PresentAddress	ic:住所型	ic:AddressType	0..n	現住所		-	nc:PersonResidenceAssociationType	residency
本籍	ic:人_本籍	LegalResidence	ic:住所型	ic:AddressType	0..n	本籍		-		
独自項目										
国籍	ic:人_国籍	Citizenship	<抽象要素>	<abstract element, no type>	0..n	国籍	A county that assigns rights, duties, and privileges to a person because of the birth or naturalization of the person in that country.	-	nc:PersonCitizenship	citizenship
Substitutable Elements:			Substitutable Elements:							
国籍名	ic:人_国籍名	+ CitizenshipText	ic:テキスト型	ic:TextType		国籍の名称。	A county that assigns rights, duties, and privileges to a person because of the birth or naturalization of the person in that country.	日本国	nc:PersonCitizenshipText	
国籍コード	ic:人_国籍コード	+ CitizenshipCode	codes:国籍コード型	codes:CitizenshipCodeType		住民基本台帳で利用されている国籍コード。	A county that assigns rights, duties, and privileges to a person because of the birth or naturalization of the person in that country.	392	nc:PersonCitizenshipFIPS10-4Code	
ISO3166Alpha2	ic:人_ISO3166Alpha2	+ ISO3166Alpha2	iso_3166:ISO3166Alpha2コード型	iso_3166:ISO3166Alpha2CodeType		国名コード。ISO3166Alpha2。2文字			nc:PersonCitizenshipISO3166Alpha2Code	
ISO3166Alpha3	ic:人_ISO3166Alpha3	+ ISO3166Alpha3	iso_3166:ISO3166Alpha3コード型	iso_3166:ISO3166Alpha3CodeType		国名コード。ISO3166Alpha3。3文字			nc:PersonCitizenshipISO3166Alpha3Code	
ISO3166Numeric	ic:人_ISO3166Numeric	+ ISO3166Numeric	iso_3166:ISO3166Numericコード型	iso_3166:ISO3166NumericCodeType		国名コード。ISO3166Numeric。数字3桁コード。			nc:PersonCitizenshipISO3166NumericCode	
出生国	ic:人_出生国	BirthCountry	ic:場所型	ic:LocationType	0..n	生まれた国。			nc:PersonBirthLocation	countryOfBirth
出生地	ic:人_出生地	BirthPlace	ic:場所型	ic:LocationType	0..n	生まれた場所。			nc:PersonBirthLocation	placeOfBirth

マッピング

コアの語彙

既存の語彙

# XML schemaの例

```
l:complexType name="人型">
l:annotation>
xsd:documentation xml:lang="ja"> 人の情報を表現するためのデータ型。
</xsd:documentation>
sd:documentation xml:lang="en" />
sd:appinfo>
:Base i:name="Object" i:namespace="http://niem.gov/niem/structures/2.0"
/>
</xsd:appinfo>
l:complexContent>
l:extension base="s:complexType">
l:sequence>
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_氏名" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_性別" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_生年月日" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_死亡年月日" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_現住所" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_本籍" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_国籍" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_出生国" />
sd:element maxOccurs="unbounded" minOccurs="0" ref="ic:人_出生地" />
sd:sequence>
</xsd:extension>
</xsd:complexContent>
</xsd:annotation>
</xsd:complexType>
l:element name="人_氏名" nillable="true" type="ic:氏名型">
l:annotation>
sd:documentation xml:lang="ja">氏名</xsd:documentation>
sd:documentation xml:lang="en">Name of a Person</xsd:documentation>
</xsd:annotation>
</xsd:element>
l:element abstract="true" name="人_性別">
l:annotation>
sd:documentation xml:lang="ja">性別</xsd:documentation>
sd:documentation xml:lang="en">Sex of a Person</xsd:documentation>
</xsd:annotation>
</xsd:element>
```

# 試行ドメイン：防災物資ボキャブラリ

## ■ 自治体等の防災物資一覧をベースに作成

項目名 (Type/Sub-properties)		項目名 (エントリー名)	英語名	データタイプ	データタイプ (英語)	cardinality	項目説明
物型		ic:物型	ItemType				物を表現する
名称		ic:物_名称	ItemName	ic:テキスト型	ic:TextType	0..n	物の名前。
ID		ic:物_ID	ItemID	ic:証明型	ic:IdentificationType	0..n	物に割り当て
バーコード		ic:物_バーコード	ItemBarcodeIdentification	ic:証明型	ic:IdentificationType	0..n	バーコードID。
シリアル番号		ic:物_シリアル番号	ItemSerialIdentification	ic:証明型	ic:IdentificationType	0..n	シリアル番号。
価値		ic:物_価値	ItemValue	ic:物品価値型	ic:ItemValueType	0..n	物の価値。
状態		ic:物_状態	ItemConditionText	ic:テキスト型	ic:TextType	0..n	物の状態。新
説明		ic:物_説明	ItemDescriptionText	ic:テキスト型	ic:TextType	0..n	物の説明。
使用方法		ic:物_使用方法	ItemUsageText	ic:テキスト型	ic:TextType	0..n	使用方法。
所有者		ic:物_所有者	ItemOwner	ic:実体型	ic:EntityType	0..n	所有者
項目名 (Type/Sub-properties)		項目名 (エントリー名)	英語名	データタイプ	データタイプ (英語)	cardinality	
購入価格		dm:救援物資要求型					
販売業者IC		dm:救援物資要求 救援物資送付先		ic:場所型		0..n	
有体物型		dm:救援物資要求 救援物資到着要求期限		ic:日付型		0..n	
分類		dm:救援物資要求 救援物資有効期限		ic:日付型		0..n	
		dm:救援物資要求 要求救援物資		dm:救援物資型		0..n	
		dm:救援物資応答型					
		dm:救援物資応答 救援物資送付期限		ic:日付型		0..n	
		dm:救援物資応答 救援物資発送元		ic:場所型		0..n	
		dm:救援物資応答 送付可能救援物資		dm:救援物資型		0..n	
製造者		dm:救援物資型		extends ic:有体物型			
製造日		dm:救援物資 救援物資品目		<抽象要素>		0..n	
数量		Substitutable Elements:					
重量		品目	dm:救援物資 品目	ic:テキスト型			
サイズ		全物品	dm:救援物資 全物品	niem-xsd:boolean			
幅		物資中分類	dm:救援物資 物資中分類	dm:物資中分類型			
高さ		西宮指定救援物資コード	dm:救援物資 西宮指定救援物資コード	codes:西宮指定救援物資分類コード型			
長さ		物資中分類型	dm:物資中分類型				
測定単位型		dm:物資中分類 粗原料及びエネルギー源		dm:粗原料及びエネルギー源型		0..n	
数値		dm:物資中分類 加工基礎及び中間製品		dm:加工基礎及び中間製品型		0..n	
単位		dm:物資中分類 生産用設備機器及びエネルギー機器		dm:生産用設備機器及びエネルギー機器型		0..n	
分類		dm:物資中分類 輸送用機器		dm:輸送用機器型		0..n	
推奨フラグ		dm:物資中分類 情報通信機器		dm:情報通信機器型		0..n	
数量型		dm:物資中分類 その他の機器		dm:その他の機器型		0..n	
単位		dm:物資中分類 食料品飲料及び製造たばこ		dm:食料品飲料及び製造たばこ型		0..n	
容量型		dm:物資中分類 生活文化用品		dm:生活文化用品型		0..n	
単位		dm:物資中分類 スクラップ及びウエイスト		dm:スクラップ及びウエイスト型		0..n	
重量型		dm:物資中分類 分類不能の商品		dm:分類不能の商品型		0..n	
単位		dm:物資中分類 分類不能の商品					
長さ型		dm:粗原料及びエネルギー源型					
単位		dm:粗原料及びエネルギー源 ガソリン		ic:容量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 ガソリン缶		ic:数量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 軽油		ic:容量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 固形燃料		ic:重量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 薪		ic:重量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 灯油		ic:容量型		0..n	
		dm:粗原料及びエネルギー源 木炭		ic:重量型		0..n	

# コア語彙作成のプロセス例（ISAの実施例）

Step 1: 利害関係者の特定

Step 2: ワーキング・グループの編成

Step 3: チェア(Chair)またはコチェア(Co-chairs)の決定

Step 4: 編集者(Editor(s))の決定

Step 5: レビュー・グループ(Review Group)の編成

Step 6: 知的所有権の制約の調整

Step 7: 作業環境のセットアップ

Step 8: ドラフトの公開

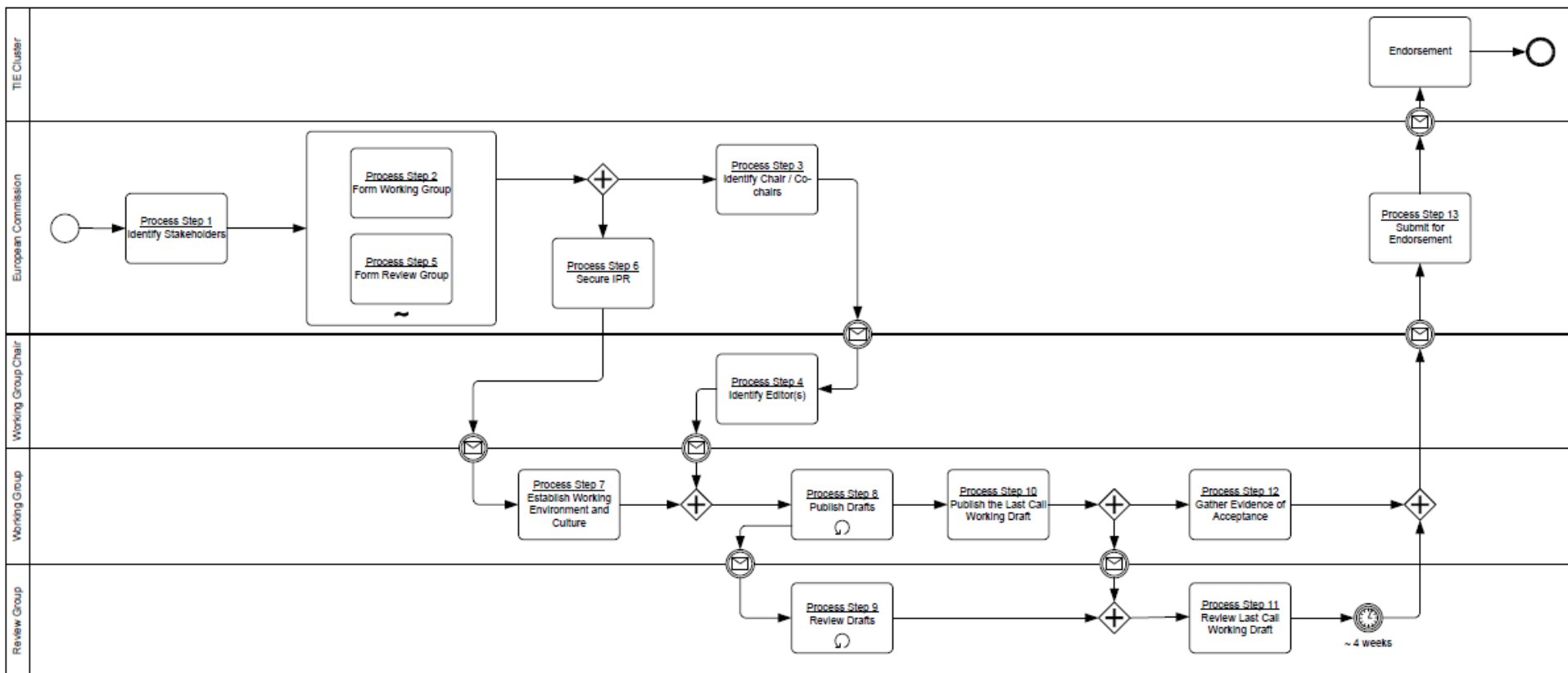
Step 9: コメントの処理

※ISAとは、Interoperability Solution for European Public Administrationという欧州の相互運用性確保プロジェクト

Step 10: ドラフトの最終版(Last Call Working Draft)の公開

Step 11: ドラフトの最終版のレビュー

Step 12: 語彙の想定利用から同意のとりまとめ





# 命名規則(NDR: Naming and Design Rules)

- IMIにおけるコンポーネントの名前付けや設計のガイドラインをまとめた命名規則 IMI Naming and Design Rulesの仕様(以下、IMI NDRと呼ぶ)の作成が必要である。IMI NDRにおいても、対応するNIEM NDRを可能なかぎり再利用する。

## NIEM概念モデル: RDF (Resource Description Framework)をベース

NIEM指針(principles): 仕様全体、XMLスキーマのデザイン、NIEM概念モデルのデザイン、実装それぞれのガイドライン、および、追加のデザインベストプラクティス

### NIEMルール

標準の採用  
ルール5-1~5.5

XML 1.0

XML  
名前空間

XML  
スキーマ  
ISO11179  
パート4  
(文字データ)  
ISO11179  
パート5  
(データ名)

制限

XMLスキーマ設計ルール  
ルール6-1~6-59

モデリング・ルール  
ルール7-1~7-70

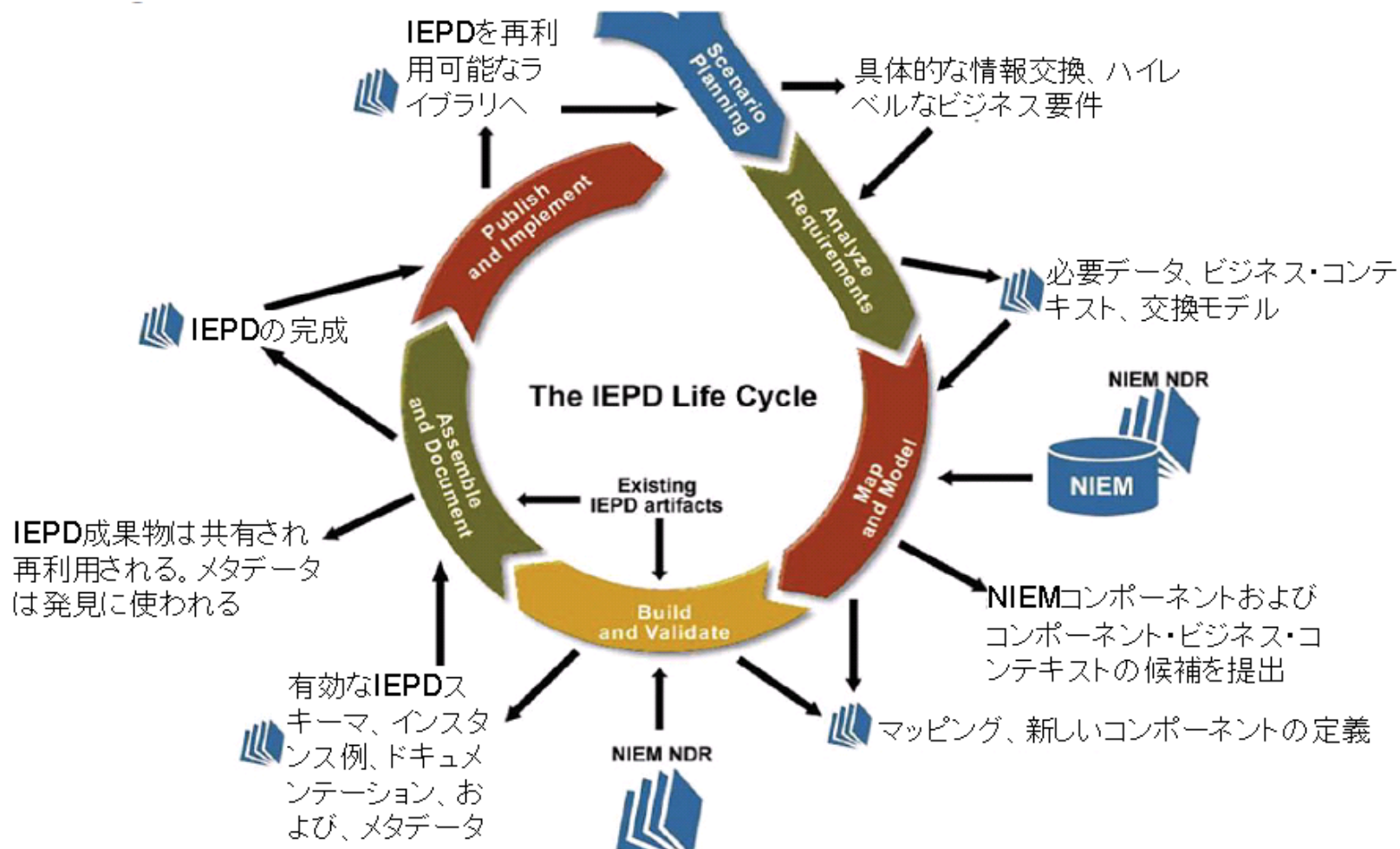
XMLインスタンス・ルール  
ルール8-1~8-14

ネーミング・ルール  
ルール9-1~9-35

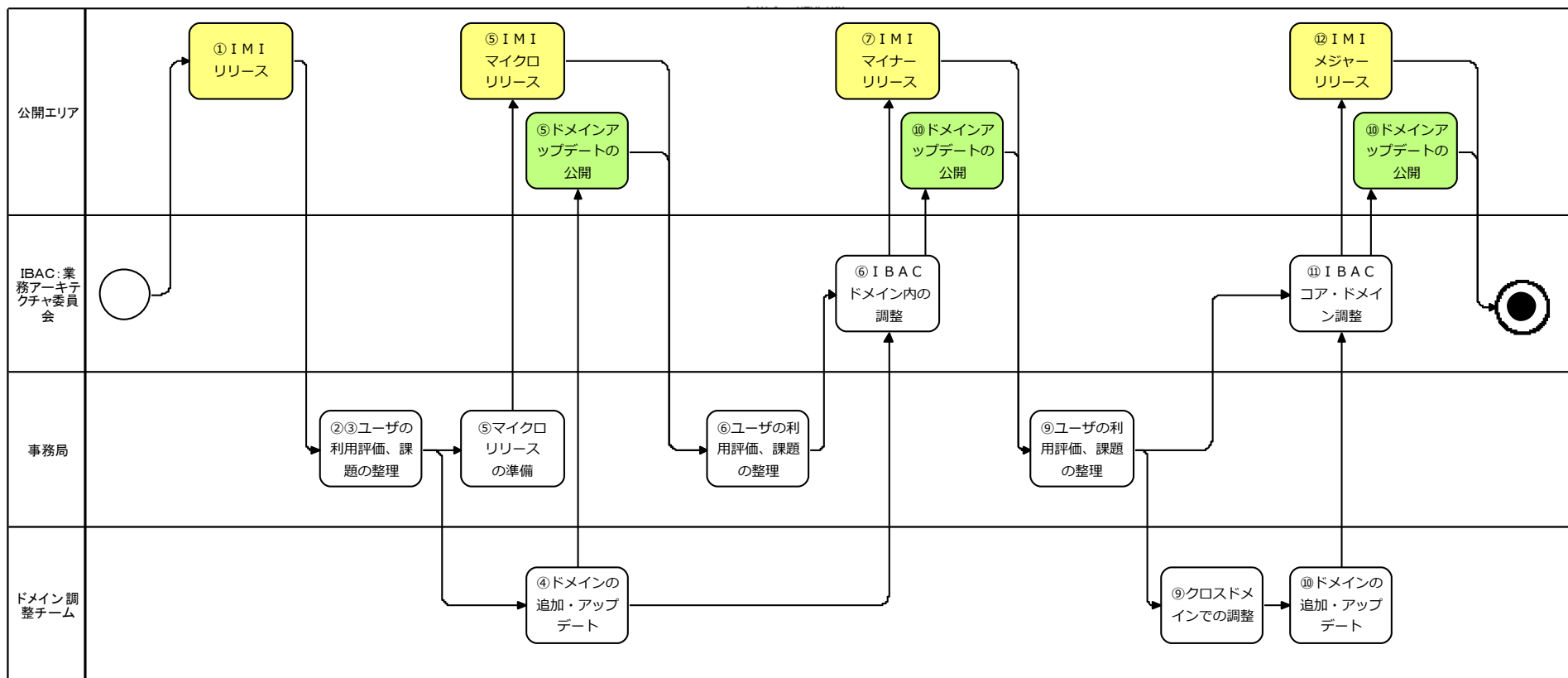
IMIでは、  
日本語対応の  
ために見直し  
が必要

## メッセージ・セットのためのツールの検証

- IMIでは語彙を組み合わせて交換用メッセージを整備するIEPD（Information Exchange Package Document）という仕組みがある。
- 今後はIEPDのライフサイクルを繰り返すことにより、成果物の再利用と拡張を進めていく必要がある。



- IMIにおいて、段階的なCore改訂の指針として  
NIEM High-Level Versioning Architecture (HLVA) を踏襲する
  - 段階的・継続的な改良をめざしており、完全な最終形態をめざさない



# IMI利用モデル例

ステップ1: 目標設定、手順の計画

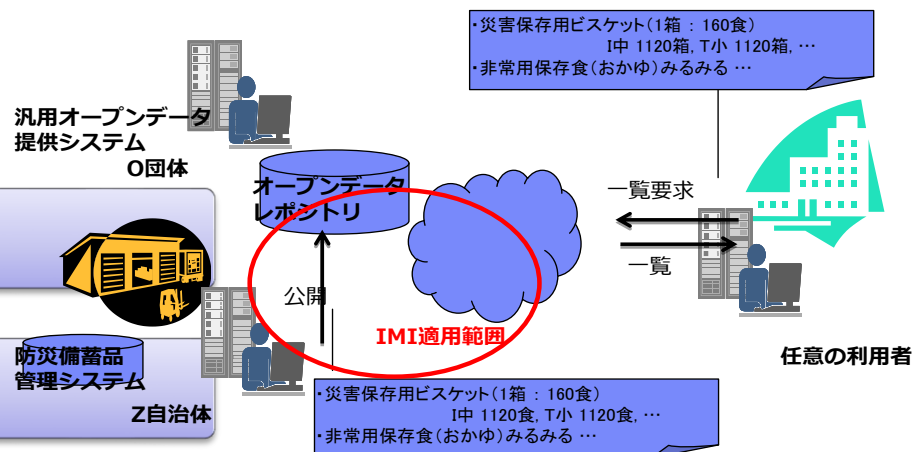
ステップ2: 情報交換にまつわる業務要件の理解

ステップ3: 語彙のデータモデル作成と既存語彙との対応付け

ステップ4: 既存スキーマの再利用と整合性検証

ステップ5: 情報交換にまつわる文書とともにIEPDとしてパッケージ

ステップ6: IEPDの公開と情報交換の実装



Source Type	Source Property	Data Type	Description	Cardinality	Ext?	XPath	Comments
防災備蓄状況報告	報告状況 公開日時	dateTime	防災備蓄の状況報告	1..1	N	ic:日時	
防災備蓄状況報告	公開元団体	団体	報告状況の公開日時	1..1	N	ic:団体	
防災備蓄状況報告	防災備蓄	防災備蓄	報告管理団体	0..*	Y	ic:団体	
防災備蓄	防災備蓄	防災備蓄	防災備蓄	0..*	Y	ic:団体	
防災備蓄	防災備蓄 場所	場所	防災備蓄している場所	0..1	N	ic:場所	
防災備蓄	防災備蓄 物品	防災備蓄 物品	防災備蓄されている物品	0..*	Y	ic:物品	
防災備蓄 物品	物品名	string	防災備蓄されている物品	0..1	N	im-bb:防災物品	
防災備蓄 物品	物品数量	物品数量	防災備蓄されている物品	0..1	N	im-bb:防災物品	
食品	食品名	string	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品名	
食品	食品数量	number	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品数量	
食品	食品名	string	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品名	元 防災備蓄 物品
食品	食品数量	number	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品数量	
食品	食品名	string	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品名	元 防災備蓄 物品
食品	食品数量	number	防災備蓄食品	0..1	N	im-bb:防災物品/im-bb:物品数量	

Code List Generator Tool Provides the code list for the schema

Load Code List

Code List

Build an XML Schema for the code list from an RDDL set. The tool will use the code list as the input. The generated schema is Code and Description, and the rest of the tool will use the code list as the input.

Here is an example of the generated schema from the template. The namespace schema location will specify the file to use.

Namespace Profile

① Namespace URI

② Namespace Definition

③ Namespace Schema Location (optional: code: code)

④ Namespace Version

⑤ Code List Data (optional: code: code)

Build Schema Code List

No.	品名	所属団体
1	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
2	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
3	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
4	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
5	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
6	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
7	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
8	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
9	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
10	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
11	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
12	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
13	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
14	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
15	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
16	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
17	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
18	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
19	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
20	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
21	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
22	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
23	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
24	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
25	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
26	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
27	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
28	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
29	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
30	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
31	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
32	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
33	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
34	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
35	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
36	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
37	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
38	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
39	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
40	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
41	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
42	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
43	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
44	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
45	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
46	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
47	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
48	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
49	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
50	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
51	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
52	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
53	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
54	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
55	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
56	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
57	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
58	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
59	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
60	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
61	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
62	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
63	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
64	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
65	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
66	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
67	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
68	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
69	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
70	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
71	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
72	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
73	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
74	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
75	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
76	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
77	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
78	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
79	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
80	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
81	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
82	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
83	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
84	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
85	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
86	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
87	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
88	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
89	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
90	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
91	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
92	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
93	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
94	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
95	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
96	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
97	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
98	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
99	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告
100	防災備蓄状況報告	防災備蓄状況報告

# 共通語彙基盤整備まとめ

- コア・ボキャブラリ案の整備は、ほぼ完了。
- 日本は、フリガナ等の問題があり、海外の既存語彙との単純な言語変換だけでは済まない部分がある。
- しかし、多くの部分では、海外の先行事例を引用した形で整備が可能である。
- 命名規則（NDR）案を最初に決めたため、各データの項目名は簡潔な構造に整理されている。そのため、将来、語彙が増大した時にも対応が容易である。
- メッセージ・セット等のツールに関しては、必要性は確認されたが、整備は今後の課題である。
- 運用規則案は、今後運用していく中で精査していく必要がある。



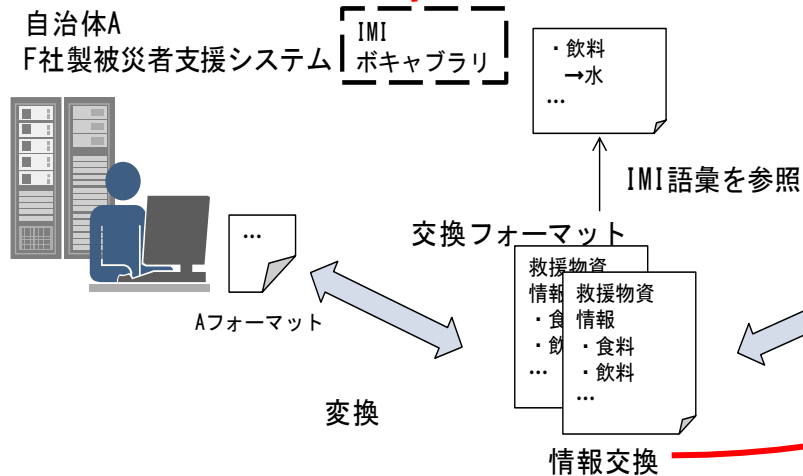
---

### 3. ユースケースの検証 (コア、防災)

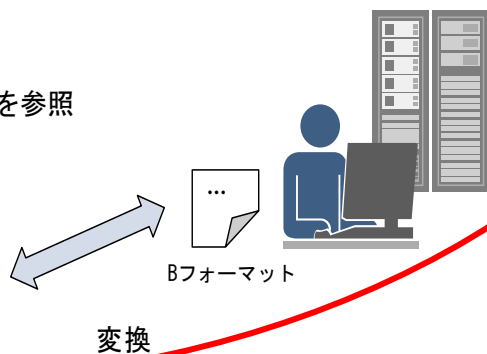
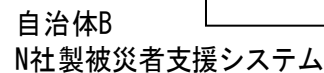
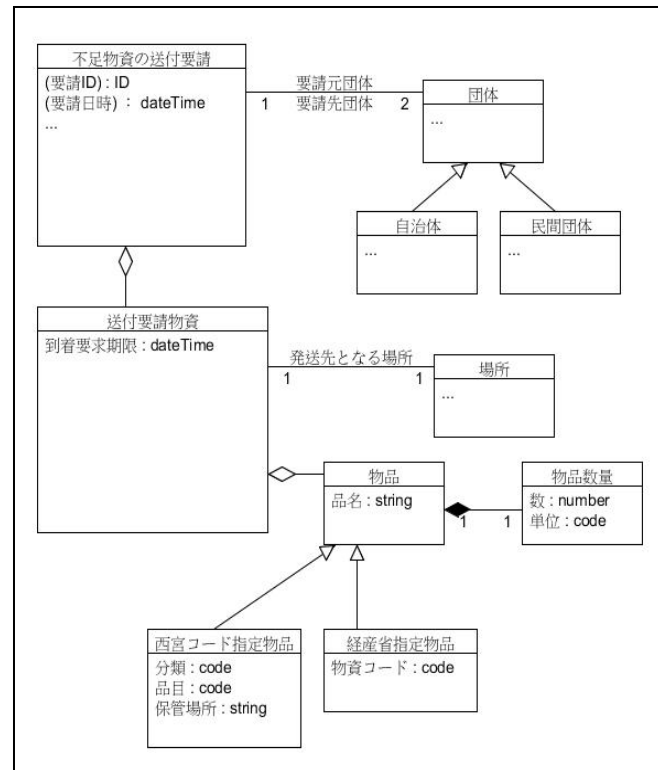
## 防災分野での活用の検討

■ IMI防災物資情報交換で、いくつかのユースケースを想定し検証。

A	B	C	D	E	F
41	項目タイプ名(Type/Sub-property)	英語名	データタイプ	項目説明	項目説明(英語)
42	数値物産品型		数値型	数値物産品シフト	
43	日付物産品型		DateTime Type	日付先となる場合	
44	時間物産品型		DateTime Type	時間先となる場合	
45	通貨物産品型		通貨物産品型		
46	通貨物産品型		通貨物産品型		
47	通貨物産品型		通貨物産品型		
48	通貨物産品型		通貨物産品型		
49	通貨物産品型		通貨物産品型		
50	通貨物産品型		通貨物産品型		
51	通貨物産品型		通貨物産品型		
52	通貨物産品型		通貨物産品型		
53	通貨物産品型		通貨物産品型		
54	通貨物産品型		通貨物産品型		
55	通貨物産品型		通貨物産品型		
56	通貨物産品型		通貨物産品型		
57	通貨物産品型		通貨物産品型		
58	通貨物産品型		通貨物産品型		
59	通貨物産品型		通貨物産品型		
60	通貨物産品型		通貨物産品型		
61	通貨物産品型		通貨物産品型		
62	通貨物産品型		通貨物産品型		
63	通貨物産品型		通貨物産品型		
64	通貨物産品型		通貨物産品型		
65	通貨物産品型		通貨物産品型		
66	通貨物産品型		通貨物産品型		
67	通貨物産品型		通貨物産品型		
68	通貨物産品型		通貨物産品型		
69	通貨物産品型		通貨物産品型		
70	通貨物産品型		通貨物産品型		
71	通貨物産品型		通貨物産品型		
72	通貨物産品型		通貨物産品型		
73	通貨物産品型		通貨物産品型		
74	通貨物産品型		通貨物産品型		
75	通貨物産品型		通貨物産品型		
76	通貨物産品型		通貨物産品型		
77	通貨物産品型		通貨物産品型		
78	通貨物産品型		通貨物産品型		
79	通貨物産品型		通貨物産品型		
80	通貨物産品型		通貨物産品型		
81	通貨物産品型		通貨物産品型		
82	通貨物産品型		通貨物産品型		



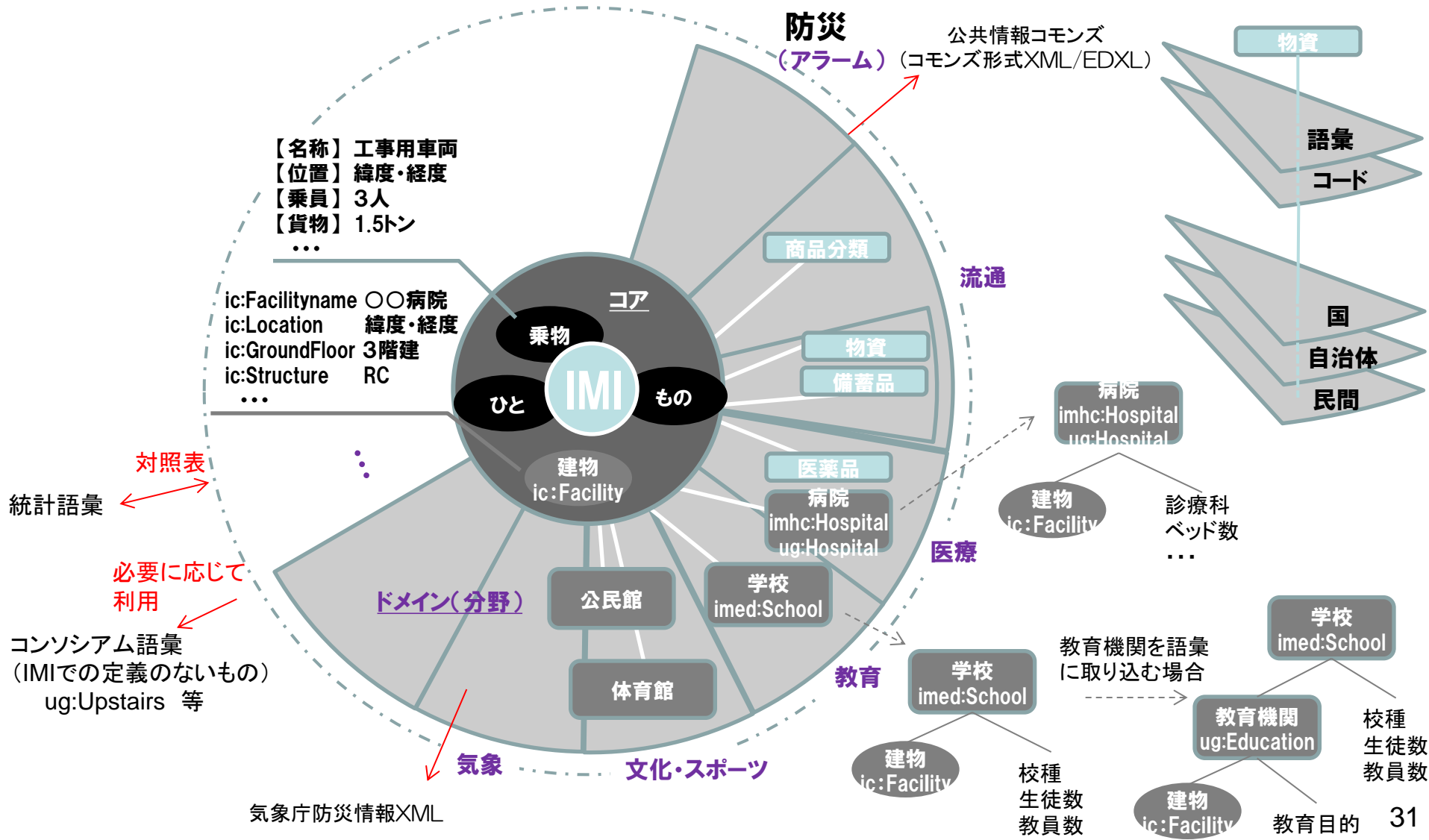
## 不足物資の送付要請の例



## 総務省オープンデータ実証実験（地物とのマップ）

## ■ データ項目レベルでの複数語彙体系の検証を実施

- IMIに規定していないことはFoaf、DC、NIEM等の既存標準を利用



# 総務省オープンデータ実証実験（地物とのマップ） 2

- 総務省実証実験で整理した語彙は、多くのものが共通語彙基盤とマッピング可能である。これにより、他の領域の語彙との交換も簡単になる。

		IMI	データタイプ
ug:Point	地点情報クラス		
ug:TinyPoint	簡易緯度経度高度ucode（ucodeURI）型エンティティ		
ug:Poi	関心地点クラス		
ug:Category	地物のカテゴリのクラス		
ug:Facility	任意の施設	ic:Facility	
ug:Station	駅		ic:FacilityCategoryText
ug:PublicOffice	公共施設（役所・役場等）		ic:FacilityCategoryText
ug:PoliceStation	警察施設		ic:FacilityCategoryText
ug:FireStation	消防施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Banking	金融施設		ic:FacilityCategoryText
ug:PostOffice	郵便施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Hospital	医療施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Welfare	福祉施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Education	教育施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Research	研究施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Shop	物販施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Cookshop	飲食施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Culture	文化施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Sightseeing	観光施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Leisure	レジャー施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Park	公園		ic:FacilityCategoryText
ug:Transport	公共交通機関		
ug:Service	サービス		
ug:Common	共通施設		ic:FacilityCategoryText
ug:Parking	駐車場		ic:FacilityCategoryText
ug:Toilet	トイレ		ic:FacilityCategoryText
ug:Elevator	エレベータ		ic:FacilityContainsItem
ug:Stairs	階段		ic:FacilityContainsItem

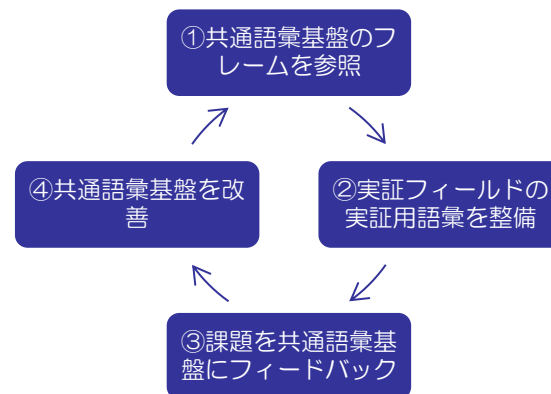
FacilityType	
FacilityIdentification	n09879
FacilityName	第一病院
FacilityCategoryText	医療施設
FacilityCommercialIndic	falt
FacilityLocation	港区芝浦1-4-5
FacilityContactInforma	<a href="mailto:info@no1hospi.or.jp">info@no1hospi.or.jp</a> <a href="tel:03-****-****">03-****-****</a>
FacilityContainsItem	エレベータ スロープ
FacilityReference	

↓ RDFモデルでの表現イメージ

http://\*\*\*\*\*daiichiHSPTL

ic: FacilityName	→ 第一病院
ic: FacilityLocation	→ 港区芝浦1-4-5

協力サイクル案



# 住民基本台帳関連データ項目での検証

- 総務省中間標準フォーマットとのマッピングも検証。データ構造が複雑であり、さらなる検証が必要である。
- ただし、基本のデータ型の定義には有効と考えられる。

データ項目一覧表				業務名						移行ファイル名	バージョン
				住民基本台帳						住基ファイル	バージョン:V1.0
No.	データ項目名称			データ型	桁数	外字 使用	コード	必須[○] ／任意 [空白]	繰り返し [2回以上の場 合のみ記載]	項目説明	サンプル値
		IMI英語名	データタイプ								
1	識別番号		ic:TextType	X	15			○		人を統一的に管理する番号	123456789012345
2	個人履歴番号		ic:TextType	9	10			○		個人番号単位に、履歴の古い順カウントアップ。	1
3	削除フラグ		ic:TextType	X	1		削除フラグ	○		削除レコードかそれ以外かのフラグ。	0
4	改製番号		ic:TextType	9	5			○		住民票世代単位に、古い順にカウントアップ。	1
5	世帯番号		ic:TextType	X	15			○		住基世帯を管理する番号	234567890123456
6	住民種別		ic:TextType	X	1		住民種別	○		人の種別(住民・外国人・住登外・法人)を表す区分	1
7	住民状態		ic:TextType	X	1		住民状態	○		人の状態(住民・転出・死亡・削除)を表す区分	1
8	住民票コード		ic:TextType	X	11					住民基本台帳ネットワークの管理番号	34567890123
9	氏名区分		ic:TextType	X	1		氏名区分			氏名が英字か漢字かの区分。	1
10	氏名	ic:PersonNameType	ic:TextType							住民基本台帳の氏名	
11	氏名	ic:FullName	ic:TextType	N	200	○		○		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。	佐藤 一郎
12	フリガナ	ic:KanaFullName	ic:TextType	N	200			○		姓と名の間に全角の空白を一文字入れる。	サトウ イチロウ
13	従前通称名有無フラグ		ic:TextType	X	1		有無			転入前の通称名情報が有るか否かのフラグ。	0
14	通称氏名		ic:TextType							通称氏名	
15	氏名		ic:FullName	N	200	○				外国人の場合のみ使用。通称漢字氏名を設定。	佐藤 一郎
16	フリガナ		ic:KanaFullName	N	200					外国人の場合のみ使用。通称半角カナ氏名を設定。	サトウ イチロウ
17	併記氏名		ic:TextType							併記氏名	
18	氏名		ic:FullName	N	200	○				外国人の場合のみ使用。併記名(漢字圏の外国人の場合は、漢字氏名)を設定。	佐藤 一郎
19	フリガナ		ic:KanaFullName	N	200					外国人の場合のみ使用。併記名(漢字圏の外国人の場合は、併記氏名の読み)を設定。	サトウ イチロウ
20	外登法併記名		ic:TextType							外登法併記名	
21	氏名		ic:FullName	N	200	○				外登法併記名氏名	佐藤 一郎
22	フリガナ		ic:KanaFullName	N	200					外登法併記名フリガナ	サトウ イチロウ

# Datametiデータ項目での検証

- DataMETIサイトのメタデータで検証。
- ダブリンコア（DC）の補完モデルとして機能するモノと考えられる。

番号	英語表記(API)	日本語表記(API)	日本語表記(UI)	説明	形式(API)	IMI	type
1	name	-	URLの一部	データセットの名前。2から100文字の長さの小文字の半角英数字列。記号は'-'と'_'のみ使用可。	文字列	dcndl:SeriesTitle	ic:TextType
2	title	タイトル	タイトル	データセットのタイトル	文字列	dcterms:Title	ic:TextType
3	author	作成者	作成者	データセット作成者	文字列	dcterms:creator	ic:PersonNameType
4	author_email	作成者のメールアドレス	作成者のメールアドレス	データセット作成者のメールアドレス	文字列	ic:ContactEmailID	ic:ContactEmailID
5	maintainer	メンテナー	メンテナー	データセット管理者	文字列		ic:PersonNameType
6	maintainer_email	メンテナーのemail	メンテナーのemail	データセット管理者のメールアドレス	文字列	ic:ContactEmailID	ic:ContactEmailID
7	license_id	ライセンス	ライセンス	ライセンスのID	ライセンスIDの文字列		ic:TextType
8	notes	説明	説明	データセットの説明	文字列	dcterms:description	ic:TextType
9	url	ホームページ	ホームページ	データセットのホームページのURL	文字列	dcterms:URI	niem-xsd:anyURI
10	version	バージョン	バージョン	バージョン。100文字未満。(例: 1.2.0)	文字列	dcterms:hasVersion	ic:TextType
11	state	状態	状態	データセットの状態	文字列('active'もしくは'deleted')		ic:TextType
12	resources	-	-	データセットに含まれるリソース	リソースのリスト	dcterms:bibliographicCitation	ic:TextType
13	type	-	-	データセットのタイプ	文字列	dcterms:type	ic:TextType
14	tags	タグ	タグ	データセットのタグ名。複数のタグを付与する場合は、カンマで区切る。	タグのリスト		ic:TextType
15	extras	-	-	任意のキー（メタデータ名）とその値。（例．キー：公表日、値：2013/1/10）	エキストラのキーと値のリスト		ic:TextType
16	relationships_as_object	-	-	2つのデータセットの関係におけるobjectであること	関係のリスト	dcterms:Source	ic:TextType
17	relationships_as_subject	-	-	2つのデータセットの関係におけるsubjectであること	関係のリスト	dc:terms:Subject	ic:TextType
18	groups	グループ	グループのメンバー	所属するグループ名	グループのリスト		ic:OrganizationName

DataMETIサイトの語彙

IMIの語彙とデータタイプ  
 ・ダブリンコアの語彙がベース  
 ・不足しているモノを追加



# 復旧・復興支援制度データベース項目での検証

- 定型フォーマットの作成でも、基本データ形式としてIMIの語彙は活用が可能。
- 中長期的に、このようなフォーマット作成で活用していくことが重要である。

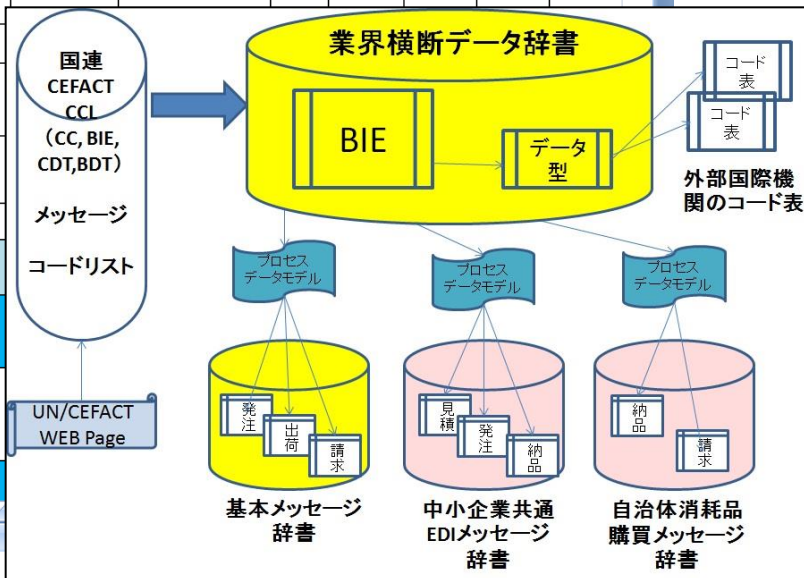
制度情報DBのIMI対応表

復旧・復興 DB		IMI コア	Type
所管組織		ic:組織_組織名	ic:OrganizationName
制度名			ic:TextType
自治体独自名			ic:TextType
概要			ic:TextType
内容			ic:TextType
根拠法	名称		ic:TextType
	URL		niem:xsd:anyURI
対象者			ic:TextType
申請・届出方法			ic:TextType
申請期限			ic:DataType
支援期間			ic:DataType
詳細参照先	名称		ic:TextType
	URL		niem:xsd:anyURI
申請書類	名称		ic:TextType
	URL		niem:xsd:anyURI
電子申請	名称		ic:TextType
	URL		niem:xsd:anyURI
お問合せ	組織・窓口名称	ic:組織_組織名	ic:OrganizationName
	TEL	ic:連絡先_電話番号	ic:ContactTelephone
	FAX	ic:連絡先_FAX 番号	ic: ContactFax
	メール	ic:連絡先_メールアドレス	ic: ContactEmailId
	郵便番号	ic:構造化住所_郵便番号	ic:PostCode
	住所	ic:住所_住所	ic:Fulladdress
	自由記述		ic:TextType
お問合せ先一覧			ic:TextType
予算枠の有無			ic:TextType
対象地域			ic:TextType
対象災害名			ic:TextType
制度開始日		ic:関連型_開始日	ic:DataType
制度終了日		ic:関連型_終了日	ic:DataType

# 参考：SIPS（業界横断EDI仕様v2.0） 国連CEFACT日本委員会

■ 民間の語彙基盤との融合も今後の課題である。

国連CEFACT/BIE辞書																業界横断EDI仕様情報項目				データ型補足情報			
行番号	ヘッダ/明細	国連CEFACT BIE辞書ID番号	項目種	DEN(Dictionary Entry Name)												項目名	項目定義	繰返し	補足1	補足2	補足3		
1	ヘッダ部		MA	Cordross Industry_Order												注文メッセージ	発注者が受注者に送付する発注文書(メッセージ)。	-					
2	ヘッダ部	UN01006517	ASMA	CIOH_Exchanged_Document.Details												注文書	注文情報文書クラス	1..1					
3	ヘッダ部	UN01006518	BBIE	CIOH_Exchanged_Document.Identification.Identifier												注文書識別子、注文書番号、注文番号	注文伝票番号	1..1					
4	ヘッダ部	UN01006519	BBIE	CIOH_Exchanged_Document.Name.Text												注文書名称							
5	ヘッダ部	UN01006521	BBIE	CIOH_Exchanged_Document.Issue.Date Time												注文日、注文書発行日時							
6	ヘッダ部	UN01006524	BBIE	CIOH_Exchanged_Document.Purpose.Code												注文書目的コード							
7	ヘッダ部	UN01006526	BBIE	CIOH_Exchanged_Document.Version.Identification.Identifier												注文書バージョン番号							
8	ヘッダ部	UN01006532	ASBIE	CIOH_Exchanged_Document.Included_CI_Note												注文書注釈							
9	ヘッダ部	UN01006557	ABIE	CI_Note.Details												注釈、備考、付加情報、備考情報							
10	ヘッダ部	UN01006560	BBIE	CI_Note.Content.Text												備考注釈内容							
11	ヘッダ部	UN01006583	ASMA	CIOH_SupplyChain_Trade_Transaction.Details												発注							
12	ヘッダ部	UN01006583	ASMA	CIOH_SupplyChain_Trade_Transaction.Details												出荷							
13	ヘッダ部	UN01006583	ASMA	CIOH_SupplyChain_Trade_Transaction.Details												請求							
14	ヘッダ部	UN01006583	ASMA	CIOH_SupplyChain_Trade_Transaction.Details												納品							
15	ヘッダ部	UN01006583	ASMA	CIOH_SupplyChain_Trade_Transaction.Details												請求							



## 検証まとめ

- 防災（物資）については、語彙がバラバラであり、このような共通辞書作りは有効と考えられる。
- ビルディングを記述するときにも、「建物」と見るのか「施設」と見るのかで利用法や管理方法が違う。このようなことも想定し、柔軟性の高い構造で整備していくことが必要である。
- 他府省、自治体ヒアリングでは、システムに経験がある人からの評価は高い。コアの部分からでも早期に公表していくことが求められている。
- 実証フィールドへの適応を検討すると、その適応の検討を進める中で、コアで不足している部分が明確になる。今後も実証フィールドとの連携を強化し、全体の体系を含め見直しを適宜行いながら推進していくことが必要である。